



平成21年9月25日

各位

会社名 株式会社 ゴ ト ー
代表取締役社長 後 藤 行 宏
(JASDAQ・コード 9817)
(問合せ先)
責任者役職名 常務取締役管理本部長
氏 名 土 橋 文 彦
T E L 055 (923) 5100

特別損失の発生、平成22年2月期第2四半期累計期間業績予想 及び通期業績予想の修正並びに配当予想の修正に関するお知らせ

平成22年2月期（平成21年3月1日～平成22年2月28日）の第2四半期累計期間および通期の業績予想にあたりまして、下記のとおり特別損益が発生することとなりましたので、その概要をお知らせするとともに、平成21年7月10日付け当社「平成22年2月期第1四半期決算短信（非連結）」にて発表いたしました業績予想を、また、配当予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 特別損益の発生およびその内容

当社第2四半期累計期間におきましては、特別利益として事業譲渡益および保険解約返戻金として45百万円を計上し、特別損失として店舗利益の減少に伴う減損損失257百万円計上することといたしました。

2. 平成22年2月期 業績予想の修正等

(1) 第2四半期累計期間（平成21年3月1日～平成21年8月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
					円 銭
前回予想 (A)	6,435	62	202	92	10.06
今回修正 (B)	6,250	△1	111	△157	△17.10
増減額 (B-A)	△185	△63	△91	△249	△27.16
増減率 %	△2.8%	—%	△45.0%	—%	—%
(ご参考) 前期実績	7,054	141	269	65	7.10

(2) 修正理由

当社第2四半期累計期間におきましては、国内経済には金融不安があったものの、政府の経済対策等により景気持ち直しの動きも見られますが、企業収益や雇用情勢の悪化、雇用者所得の伸び悩みなどを背景に消費者の生活防衛意識、節約志向が続いております。

当社では、売上高に関しましては、TSUTAYA 事業ではオンライン販促の強化と、CD/DVD 販売コーナーをコミックレンタルに一部転換し、お客様の利便性の向上に注力してまいりました。しかしながら、CD/DVD レンタルは低調に推移し、また、商品販売に関しましては CD/DVD 販売店舗を減少させてきたことと、CD/DVD 市場とゲーム市場の低迷による落ち込みの影響が大きく当初見込額を 221 百万円下回る結果となりました。

BOOK OFF 事業におきましては、消費者の節約・エコ志向の高まりにより来店客数も増え、また、3月に1店舗新規に開店したこともあり、事業全店で売上高は 32 百万円の増加となりました。

ゲーム事業に関しましては、新作ゲームソフトのタイトル不足、客数の減少もあり新品、中古ともに低調に推移し当初見込額を 11 百万円下回る結果となりました。

ファッションその他事業では、消費者の節約志向と天候不順により客数が減少しましたが売上高は当初見込額を 14 百万円上回る結果となりました。

損益面につきましては、売上高の減少に伴い経費節減に努め、販売費及び一般管理費を圧縮することにより利益の確保に注力しましたが、売上高減少に伴う利益の減少を補うことが出来ず営業利益は当初見込額より 63 百万円減少、経常利益は 91 百万円少ない 111 百万円と予想額を大きく下回るものとなりました。

当期純利益に関しましては、店舗の損益状況の悪化により減損損失 257 百万円を計上したことが響き当期純損失 157 百万円（前年同期比 222 百万円減少）と見込まれる結果となりました。

(3) 通期（平成 21 年 3 月 1 日～平成 22 年 2 月 28 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
					円 銭
前回予想 (A)	12,803	75	355	136	14.77
今回修正 (B)	12,571	26	271	△166	△18.05
増減額 (B-A)	△232	△49	△84	△302	△32.82
増減率 %	△1.8%	△65.3%	△23.6%	—%	—%
(ご参考) 前期実績	13,993	185	442	11	1.27

(4) 修正理由

通期の業績につきましては、景気回復への先行きに不透明感が強く残り、当社事業を取り巻く経済環境は依然として厳しい状況が続くものと思われまます。このような環境下、当社では第2四半期累計期間の業績見込みを踏まえ、当初の前提条件を見直した結果、通期業績予想を上記のとおり修正いたします。

売上高に関しましては、BOOK OFF 事業は堅調に推移すると思われ、また、第3四半期において新規出店1店舗があり若干の増嵩を見込んでおります。しかしながら、TSUTAYA 事業、ゲーム事業ともに第2四半期累計期間までと同様の厳しい状況で推移するものと予想されますので、通期売上高に関しましては、当初予想より1.8%減の12,571百万円と予想しております。

損益面に関しましては、費用発生の抑止と修繕等の優先度合いを勘案して効率・効果的な経費支出を行うことにより、当初の見込み額を削減し営業利益の増額に繋がりたいと考えております。また、営業外損益では第2四半期累計実績見込み額に対してほぼ同額を予想しておりますが、経常利益につきましては当初予想を84百万円下回る271百万円(前年同期比171百万円減少)と予想しております。

当期純利益に関しましては、店舗の損益状況により減損損失の発生も予想されますが、第2四半期累計の実績以上の特別損益の発生はないものと予想し、税引後利益は当初予想を302百万円下回る当期純損失166百万円(前年同期比177百万円減少)と予想いたしました。

3. 配当予想の修正

(1) 修正の内容

基準日	1株当たり配当金		
	第2四半期末	期末	年間
前回発表予想	円 銭 0.00	円 銭 7.50	円 銭 7.50
今回発表予想	0.00	0.00	0.00
当期実績	0.00		
前期実績(平成21年2月期)	0.00	7.50	7.50

(2) 修正理由

当社の利益剰余金の配当に関しましては、将来の事業展開及び財務体質の強化を勘案した内部留保と、長期にわたる安定的な経営基盤の確保によって、株主には安定的な配当による利益還元を考慮しつつ行うことを基本方針しております。

当事業年度の配当につきましても上記方針に基づき1株につき7円50銭の配当が当初の予定でありましたが、上記2. 平成22年2月期業績予想の修正等に記載のとおり、予想利益を大きく下回ることが見込まれるため、誠に遺憾ではありますが、当期(期末)の配当につきましては無配とさせていただきます。

当社を取り巻く事業環境は、従前にも増して厳しい状況が続くものと予想されます。このような状況を乗り切り、収益確保の施策を早期に図り、全社を挙げて経費削減や営業力強化に取り組み、株主並びに関係各位の皆様のご期待に沿うべく全力で業績向上に取り組んでまいります。何卒ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としているため、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上